

顧客の経営課題に基づいたオフィス作りで ワークスタイルの変革をあと押し

株式会社エフエム・ソリューションは、企業と社員が持つ能力を最大限に引き出すためのオフィスのあり方を分析し、最適化するオフィス作りのコンサルティング企業。二〇〇六年には石川島播磨重工業株式会社(以下「IH」)の大規模な統合移転を請け負い、二〇〇六年度日経「ニューオフィス推進賞」受賞に導いた。エフエム・ソリューションは、オフィス移転と経営課題の解決の関連性をどのような視点で捉えているのだろうか。IHの移転事例も交えながら紹介しよう。

経営課題を解決する「戦略的オフィス」の構築

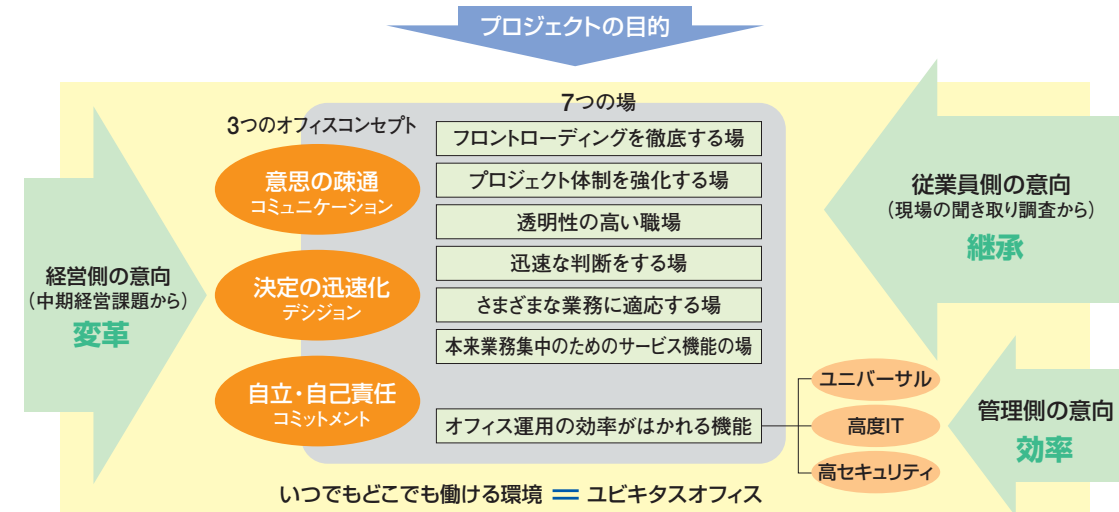
企業にとって、ワークスタイルの変革は常につきまとう課題だ。どのようなスタイルが正しい形かを模索するのが難しいだけでなく、時代や目標に合わせた細やかな調整も必要になるためである。また、理想的なワークスタイルを見いだしたとしても、必ずしも社員に浸透するとは限らず、絵に描いた餅で終わるケースもある。ワークスタイルの変革は、組織にとっても社員にとっても考え続けていかねばならない課題だといえるだろう。

エフエム・ソリューションのコンサルティング事業だ。単にスローガンや精神論だけで変革を促すのではなく、企業を目標達成に導くための執務環境を作り上げるのである。

二〇〇六年に都内数か所から豊洲IHビルへ統合移転したIHのケースにおいても、エフエム・ソリューションは空間設計や引っ越しのコーディネートだけでなく、ワークスタイルの変革を促すオフィスの提案をした。IH側が中期的経営課題として「グループ経営の強化」という明確な経営課題を示していたため、エフエム・ソリューションはまず、オフィスを変革する上での大きな方向性を策定し、一方では現場への聞き取り調査を行った。こうして

■3つのオフィスコンセプトと7つの場の使い方

技術を大切に	フロントローディングの徹底 → 「設計に始まり設計に終わる」
リスク管理の強化	新規受注に対する契約審査の強化 → 重要受注案件の基準の見直し 本社直轄リスクヘッジ機能の組織設置 → 関連部門強化と検討委員会の新設
トップの意思・伝達	電子メールや社員対話会でのトップの意思の伝達 → 上司は内容をかみ砕いて伝える → 議論の場を増やす
企業風土の回復	上下左右が自由闊達に話し合える風土に戻す → 働き方と意識の変革(業務改革)と「野武士作戦」(伝統的精神の復活)の展開。上司は透明性を持ち、いつでも相談を受け、自らプロジェクトや設計に関与する



経営側の意向である「変革」と、従業員側の意向である「継承」を両立させる、三つのオフィスコンセプトと七つの場の使い方を提案した(図表)。

移転にあたって打ち出されたコンセプトは、「意思の疎通」「決定の迅速化」「自立・自己責任」の三つ。エフエム・ソリューションはこれらのコンセプトを基に、役割を持った空間を提案した。一見、普通の会議室や打ち合わせコーナーにも見える「指令室」「プロジェクトルーム」「フロントローディングコーナー」はそれぞれ、「社員の意思決定の場」、「中長期プロジェクト遂行の場」、「案件受注を目指した集中討議の場」として機能している。また、コンセプトの反映は空間設計だけでなく、

全館無線LANの採用や二四時間対応の社内図書館設置に代表される「いつでもどこでも働ける環境」ユビキタスオフィスも実現させた。

もう一つ忘れてならないのは、総務部など、オフィスの管理側にとつての重要事項「効率性」である。出来上がったオフィスの維持、管理に手間がかかってしまつては、良いオフィスとはいえない。そこでIHでは、どの階も同設備、同仕様となるユニバーサルプランを採用することで組織変化に柔軟に対応し、ランニングコストの削減と管理の効率化を実現した。こうして豊洲IHビルは、コンセプトに基づいた経営課題解決のための最適な形へと作り上げられたのである。

生産性を高めるオフィス作りを総合的にサポート

エフエム・ソリューションでは、新しいオフィスを有効に活用してもらうため、移転プロジェクト担当者のさまざまな活動を支援している。IHのケースでも、社員全員の移転に対しての理解が深まるよう、IH社内向けに開設された新オフィスの情報公開用ホームページに、情報提供を行った。開設された一年間に約一〇万件ものアクセス数があり、豊洲IHビルに収容される人数が約四〇〇〇人ということ考えると、社員の関心の高さがうかがえる。

また、新オフィスの完成前に社員を対象とした講習会の開催にも協力した。講習内容は、新オフィス完成に向けた協力の呼び掛けやオフィスの使用法説明である。経営課題解決を目的とした、オフィスとワークスタイルの変革となれば、クライアントにとつても一大事業だ。最適なオーダーメイドのオフィスは、互いに納得のいくまで行われる提案や協力体制の下進められるのである。自分たちのオフィスがどういう目的の下に設計され、どう使えばいいかを知ること、社員は能力を発揮し、経営者の目標が自然な形で達成される。この総合的な仕組み作りこそ、オフィスの専門家ならではのワークスタ



「指令室」指令者であるマネージャー室と併設



「情報センター」24時間対応の社内図書館

fm solution!
株式会社エフエム・ソリューション

〒100-0014
東京都千代田区永田町2-14-2
山王グランドビル3階

TEL:03-3593-4601 (代)

URL www.fm-solution.co.jp

出版のご案内

制度という器があっても魂を入れなければ意味がない!

「内部統制時代の文書・情報マネジメント」

著/牧野二郎(牧野総合法律事務所)
石島正勝(社)日本経営協会
山野辺 泉(株)エフエム・ソリューション
監修/牧野二郎(牧野総合法律事務所)
発売/NTT出版
定価/2400円(税抜き)

新会社法、金融商品取引法(日本版SOX法)施行に向けて内部統制と文書情報マネジメントに取り組む企業が生き残るための実践ガイド

イルコンサルといえるだろう。「オフィスの移転やリニューアルは、それらそのものが『目的』ではなく、経営課題解決のための『手段』なのです」と力強く話すのはエフエム・ソリューションの後藤営業企画部長。

自社の目標達成や方向転換を成功させ、生産性を高めたいと願うならば、まずは毎日過ごすオフィス環境の改善を検討してみようだろうか。